

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 5 回相模原市観光振興審議会		
事務局 (担当課)		市長公室 政策部 観光政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)		
開催日時		令和 8 年 8 月 1 8 日 (火) 午前 9 時 3 0 分から午前 1 1 時 0 0 分まで		
開催場所		相模原市市民会館 3 階第 1 中会議室		
出席者	委 員	7 人		
	その他	-		
	事務局	1 0 人 (岡田政策部長ほか 9 人 (3 区地域振興課、原、相良、土田、諸角、露崎、川島))		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 委員の紹介 3 相模原市観光振興審議会について【資料 1】 4 会長・副会長の選出 5 議題 第 4 次相模原市観光振興計画 (仮) について【資料 2】 6 その他 7 閉会		

審 議 経 過

1 開会

2 委員の紹介

3 相模原市観光振興審議会について【資料1】

本審議会の概要について、事務局が説明を行った。委員からの意見は特になし。

4 会長・副会長の選出

委員の互選により、会長に梅川委員、副会長に吉村委員が選出された。

5 議題：第4次相模原市観光振興計画（仮）について【資料2】

「（仮称）第4次相模原市観光振興計画の策定について」岡田部長から梅川会長に対して諮問書を手渡しした。

資料の内容について事務局が説明を行った。委員の主な意見は次のとおり。

（1）観光振興計画について

【現在の取組】

- 今後、高速道路や道の駅を新たに作る計画はあるか。（鈴木委員）

⇒ 次期計画期間中に津久井地域で道の駅をつくることを目指している。また、現在宮ヶ瀬湖でフィッシングの実証事業に向けた取組を行っており、関係機関と連携してドーム船の造船を計画している。

インフラ整備としては、津久井湖観光センターの再整備に向けた取組を実施中。相模湖地域では、小原の郷リニューアルや神奈川県主導で相模湖公園内にバレエの舞台を建設する検討を進めている（岡田部長）

⇒ 新しい取組をすることはいいことだが、PRが重要となる。

さがみ湖MORI MORIにも道の駅感覚で寄るお客様がいる。高速道路と並行した国道20号線沿いにあるので、山梨方面に向かわれる方、中央道を回避される方等が来ている。（鈴木委員）

- 青根地域の道路は、観光道路になっているのと同時に、富士五湖方面から都内への抜け道にもなっていて、特に高速道路が混むと交通量も非常に多くなる。道幅が狭いため、市に道路拡張の要望を出している。（井上委員）

【危機管理対応】

- 資料の中で観光地として緑区が多く挙がっていて、自然の魅力がある半面、災害の懸念もある。夏の猛暑や台風、熊の影響で客数が減っている。キャンプ場以外の魅

力も含めて発信してもらいたい。(井上委員)

⇒ 災害対策や観光危機管理等のリスクマネジメントの視点も計画に入れる必要がある。(梅川委員)

【リニア対応】

○ リニアが開通した際には、相模原市でも降りて観光してもらいたい。魅力発信とともに、あわせて二次交通が重要となる。(櫛見委員)

⇒ 橋本は広域のターミナル駅になる。緑区の玄関口としての橋本駅の位置づけの検討が必要。(梅川委員)

○ 鳥屋地域にはリニア車両基地が建設される予定で、橋本から観光客を引き込みたい。相模原に限定せず南関東の視点で、世界的に発信できる計画が望ましい。(井上委員)

【ターゲティング】

○ 少子高齢化の視点では、高齢層もターゲットにした方がいい。その際重要なのは交通インフラ。誘客のセールスポイントになる。

また、インバウンド対応も大切となる。上大島キャンプ場では、直近2年で外国人の利用者が大幅に増えている。ほとんどは移住者であるが、周辺の看板やパンフレットの多言語対応の必要があると感じている。(吉村委員)

⇒ 多言語化対応、キャッシュレス等の受入環境整備も重要な要素。時間的・経済的に比較的ゆとりのあるシニア層なども含め、ターゲットを明確にした施策が重要である。(梅川委員)

○ 成功している事例もある。例えば、酒蔵をホテルに改装し、1泊5万円以上の体験プランを組んで、インバウンドをターゲットにして売込んだ。台湾の若者は古い街並みに興味を持っている。体験・経験と組み合わせるとよいが、ターゲット層をしっかり捉えて施策を行わないと意味がない。効率のいい観光施策が必要である。(小泉委員)

【観光資源の発掘・差別化】

○ 他の地域と差別化を図るため、観光地の発掘が必要であると考え。学生、担い手等、様々な意見を集約したほうがいい。(石原委員)

⇒ 観光資源の再発掘や洗い直しは、市民だけでなく他所の人、外国人の視点を入れることで、大発見があるかもしれない。相模原の個性を見出していくことが大切。(梅川委員)

【推進体制】

○ 体験型プログラムの商品化が十分でないとの記述があるが、どのようなPRなどをしているのか。民間企業は体験プログラムづくりだけではなく売込みをやって、最終的に利益を求める。民間企業が協力し課題解決できることは多い。課題を具体的にしてほしい。(鈴木委員)

⇒ 観光の推進体制を変えていくのも大きな柱になる。観光は行政と民間がともにやっていくもの。今の状況は、行政だけでできる限界を示している。今後、地域や民間企業を支援、推進する行政の体制ができると望ましい。行政がすべてを担うのではなく、地域や民間事業者が主体的に事業を展開できるよう、行政が支援し、官民で観光を推進する体制へ転換していく必要がある。観光に関わるステークホルダーを幅広く捉え、連携して取り組むことが重要である。

課題解決型のアプローチだけでなく、相模原市ならではの個性や強みを見出し、それを伸ばしていく視点が重要である。計画を策定するだけでなく、それを実行する観光地経営の視点が重要である。今後は、ビジョンに加えて、施策を推進する組織・体制と、それを継続的に支える財源についても検討する必要がある。(梅川委員)

(2) 基本理念について

【基本的なスタンス】

- 基本理念は、長期的な視点で目指すことを書くものだと考えるので、第3次計画の基本理念をそのまま継続でいいと思う。(石原委員)

⇒ 第3次計画には、多様な資源の活用やシビックプライドのワードが入っているのもよい。(梅川委員)

【持続可能性】

- 国の計画の中では、「持続可能性」というワードがよく使われている。目指すべき将来像などにこのワードを入れてはどうか。「持続可能な地域づくり」等、消費してもらって循環して地域が豊かになるという要素を加えてもよい。(梅川委員)

⇒ 持続可能性を考えた場合、点で取り組むのではなく、面で取り組むことが必要。「地域間で連携していく」のワードを入れたい。各エリアが連携する取組みがあるといい。市民交流だけでなく、都民もターゲットにしたい。(吉村委員)

⇒ 県の観光ビジョンも改定している。県全体としては日帰り客の割合が高く、観光消費額をいかに高めるかが課題である一方、交通混雑など観光による地域負荷への配慮も必要である。(梅川委員)

- 青根で酒蔵をやっているが、町田、八王子からも広く会員募集して、140人の会員にお酒ができるまでの1年を通しての管理をやってもらっている。(井上委員)

⇒ 1回だけで終わらず、つながり続ける関係づくりが重要。地域でお金を落としてもらうことで地域が循環する。こうした継続的な関係づくりや地域内での消費の循環は、持続可能な観光を考える上で重要な要素である。少しでも地域で消費してもらえる取組みがあるといい。(梅川委員)

【リニア対応】

- 第4次計画期間中の開業を前提とするのではなく、将来のリニア開業を見据え、橋本駅の広域交通拠点としての役割や二次交通、周辺地域への誘客など、準備を進

める期間として計画に位置付ける必要がある。(梅川委員)

⇒ 短期的に取り組むことと、長期的視点で取り組むことを考えておく必要がある。(櫛見委員)

【交流】

○ 「交流」というワードには2つの意味がある。広域交流と、買って食べて泊まっの多業種交流で、後者は多くの業種が潤う。(石原委員)

⇒ 昨年度、J R東日本では各区をまわるスタンプラリー実施した。(櫛見委員)

⇒ 関係人口、第2のふるさと、観光客が継続的に訪れ、地域活動にも関わるなど観光が広がってきていて、それぞれの視点で交流の在り方を模索するのも面白い。相模原市の各区の市内交流などがあるといいのでは。

県は「回遊」というワードを使っている。(梅川委員)

【一般の市民からの発信】

○ 都内の鉄道では1日乗車のような取組をやっていて、これが一般の人の情報発信につながっている。相模原で考えると、鉄道会社とバス会社との連携が重要になる。(小泉委員)

⇒ 交流客を増やして発信してもらうことも重要だが、地域住民が自分の地域を発信してくれることが重要。(梅川委員)

○ 学生に相模原市を知ってもらう取組の一環として、街歩きを行った。新設学科で1年生しかいないので、まず相模大野を歩いてもらったが、それを起点にして「シルクティー活動」としてお茶を広げる活動を学生が進めている。

地域の歴史を知ってもらえば興味がわくので、子供たちに歴史を教えることが重要であるとする。(小泉委員)

⇒ 地域の歴史や文化を背景とした発信には説得力がある。市民が自分の街を理解し発信していくことがPRの基本。シビックプライド向上の観点でも大切なことである。(梅川委員)

【安心・安全】

○ 第3次計画には、観光の安全・安心や環境整備に関する記載がない。例えばキャンプ場ではソロキャンプが大幅に増えているため、安心してソロキャンプができる環境整備が重要となっている。併せてトイレの整備も大事である。また熊が出たり、倒木があると数年は客足が遠のくといったこともある。

安全・安心、環境整備といった視点も入れた方がいいのではないかな。(吉村委員)

6 その他

○ 誰に対するセールスポイントかの観点で、高齢者やインバウンド、市内の事業者が挙げられていた。これらのキーワードを、次回の審議会で掘り下げていきたい。

「体験」「再発掘」「国道20号線」「どのように誘客するか」「歴史文化」

「地域連携DMOが今後の受け皿になる」「持続可能性についての文言追加」
「安心安全の視点」「点から面へ」「スタンプラリー」等々、
いただいたアイデアを事務局でまとめて、次回の審議会で提示する。(岡田部長)

○ 次回は令和8年11月頃の予定。

今日の会議の議事録は事務局が作成し、各委員にご確認いただく。(原課長)

7 閉会

第 2 5 回相模原市観光振興審議会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者	梅川 智也	國學院大學	教授	審議会 会長	出席
	小泉 京美	相模女子大学	教授		出席
公 募 委 員	黒沼 陽央	公募委員	—		欠席
関 連 団 体	井上 智	津久井地域商工会連絡協議 会 津久井商工会	事務局長		出席
	石原 朗	(公社)相模原市観光協会	専務理事		出席
	吉村 幸弘	大島観光協会	会長	審議会 副会長	出席
民間事業者	鈴木 康弘	相模湖リゾート (株)	代表取締役 社長		出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道 (株) 橋本駅	駅長		出席
	中嶋 博茂	(株) J T B 相模原支店	支店長		欠席